

内科専門研修プログラム

サブスペシャルティ重点コース / 血液・腫瘍内科コース

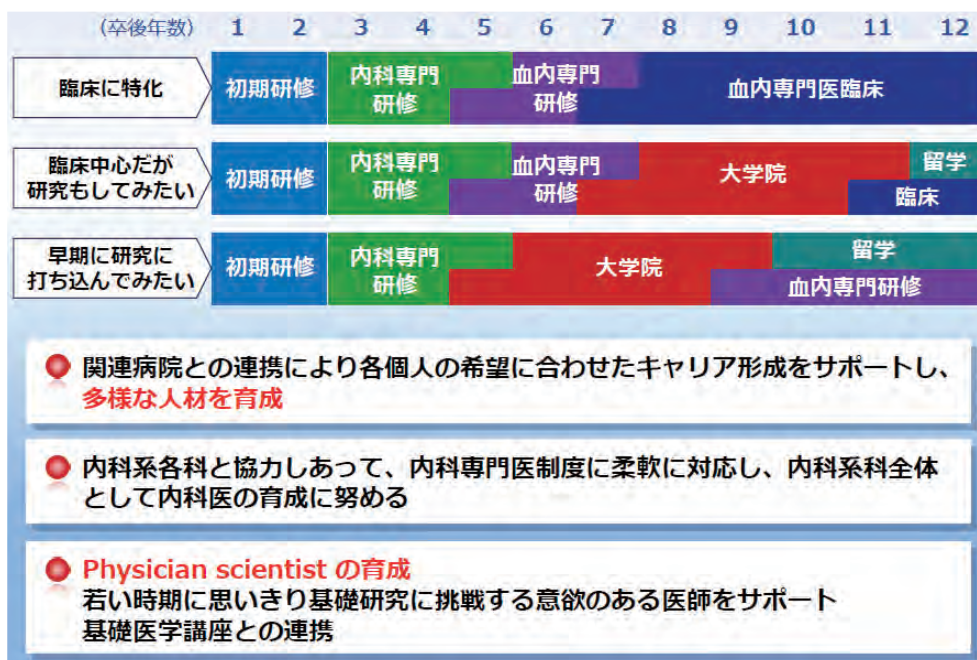
(1) コースの全体像

大阪大学血液・腫瘍内科および大阪大学内科専門研修プログラムに、基幹施設あるいは連携施設として参加している関連病院（日本血液学会が認定する研修施設）で研修する。各プラン及び関連病院の選択は希望による。

- ① 血液内科専門医研修プランでは、3年間の内科専門研修の期間に、血液内科の疾患を多症例経験することで、内科専門医を取得したあと、さらに1年の血液内科専門研修を受けると、血液内科専門医試験の受験資格を取得できる（日本血液学会では、学会が認定する研修施設での研修期間3年以上、医師経験年数6年以上必要としている）。大阪大学医学部附属病院を基幹施設としたプログラムを選択する場合は、連携施設として、市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、市立吹田市民病院、住友病院、日本生命病院、国立病院機構大阪医療センター、大阪けいさつ病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪国際がんセンター、堺市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、川崎病院、兵庫県立西宮病院、市立伊丹病院から選択し研修を受けることが可能である。また、大阪大学医学部附属病院が連携施設として参加している他の基幹施設プログラムとしては、市立池田病院、市立豊中病院、箕面市立病院、市立吹田市民病院、国立病院機構大阪医療センター、大阪けいさつ病院、大阪急性期・総合医療センター、大手前病院、堺市立総合医療センター、りんくう総合医療センター、八尾市立病院、国立病院機構大阪南医療センター、関西ろうさい病院、伊丹 Tera 昆陽、兵庫県立西宮病院の各内科専門医プログラムの中から選択することが可能である。血液内科では、血液疾患全般の診断・治療を研修し、さらに移植実施施設（大阪大学医学部附属病院、大阪国際がんセンター、市立吹田市民病院、日生病院、住友病院、大阪けいさつ病院、りんくう総合医療センター）においては、造血幹細胞移植術について研修する。また、学会や研究会では、積極的に症例発表を行なってもらおう。
- ② 大学院早期進学プランでは、大阪大学医学部附属病院を基幹施設としたプログラムを選択してもらい、3年間の内科専門研修の最後の1年間を大阪大学医学部附属病院血液・腫瘍内科で研修する。研修終了後は内科専門医を取得し、翌年からは大阪大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科へ進学し、造血細胞の増殖・分化・腫瘍化、腫瘍免疫の誘導機構、リンパ造血の制御機構、発作性夜間血色素尿症の診断・治療、血小板機能の解析などに関する臨床研究・基礎研究を行い、医学博士号を取得する。博士号取得後に、希望があれば海外留学先も紹介する。

(2) コースの概要

あなたのキャリア形成を全力でサポート！



(3) コースの実績

毎年5～10名程度が本コースを利用し、内科専門医の取得のための内科全般の症例の経験と同時に、血液疾患全般の症例を多数経験できている。なかでも、白血病などの造血器悪性疾患に対する診断及び標準的化学療法の実施、さらに移植実施施設での研修では、造血幹細胞移植等の先進的治療の知識・技術を習得できている。大学院進学者は、造血細胞の増殖・分化・腫瘍化、腫瘍免疫の誘導機構、リンパ造血の制御機構、発作性夜間血色素尿症の診断・治療、血小板機能の解析などの研究に取り組んでいる。

(4) コースの指導状況

各関連病院には大阪大学血液・腫瘍内科出身の日本血液学会による認定指導医が複数名在籍している。大阪大学と関連病院の間で「北摂血液疾患談話会」をはじめとする血液疾患に関する研究会を定期的に(約2ヶ月ごとに)開催している。同会では、研修医ら若手医師による症例発表を中心に検討を行っている。また、大阪大学血液・腫瘍内科を中心として関連病院とともに「HANDAI-Clinical Blood Club(CBC)」という名称の臨床研究グループを立ち上げ、共同で医師主導型臨床研究を行なっている。

(5) 専門医の取得等

資格名	血液専門医 (日本血液学会)
資格要件	(1) 日本内科学会認定医である者 (2) 卒後6年以上の臨床研修を必要とし、このうち3年以上日本血液学会が認定した研修施設において臨床血液学の研修を行なった者 (3) 臨床血液学に関係した内容で、筆頭者として学会発表または論文が2つ以上ある者



関連病院の一覧はこちら



見学のお問い合わせ

問い合わせ先

■ 大阪大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科

担当者 草壁 信輔

✉ kenshu@bldon.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/bldon/>

